

第20回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

平成29年2月16日（木） 10:30～12:00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、片岡部会長代理、青木委員、折木委員、久保委員、鈴木委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、松井参事官、行松参事官、高見参事官、佐藤参事官

(3) 関係省庁等

内閣官房国家安全保障局 吉田審議官

防衛省防衛装備庁プロジェクト管理部事業管理官 飯島事業計画調整官

三菱電機株式会社 小山役員技監

三井物産セキュアディレクション株式会社 七森シニアコンサルタント

有人宇宙システム株式会社 大嶋宇宙通信開発グループリーダー

4. 議事要旨

(1) 宇宙システム全体の機能保証（Mission Assurance）性強化の基本的考え方（案）について

「宇宙システム全体の機能保証（Mission Assurance）性強化の基本的考え方（案）」について、資料1に基づき、事務局より説明を行った。前部会での指摘事項は全て反映され追加の意見等もないことから、本部会にて本案を了承した。

(2) 防衛省Xバンド衛星（きらめき2号）打ち上げについて

防衛省Xバンド衛星（きらめき2号）打ち上げについて、資料2に基づき、防衛省より説明を行った。委員から以下の意見があった。（以下、○意見等、●事務局等の回答）

○Xバンド衛星3号機の打上げについて、打上げ手段などはすでに決まっているのか。

●宇宙基本計画の行程表ではH-IIAロケットとなっているが、契約作業等を今後行う中で、どういった打上げ手段になるか確定されていくことになる。

(3) 海洋状況把握に関する調査について

海洋状況把握に関する調査について、資料3に基づき、本調査を受託している三菱電機株式会社より説明があった。委員から以下の意見があった。

○船舶が多い海域では衛星でのAIS受信において混信等の課題があり、本検証においては陸上で受信するAIS情報との併用も考えるべきである。

○MDA情報の取り扱いについて、情報の蓄積や配布の要領、収集の頻度のみならず運用者へ速やかに情報を共有することも重要になってくる。

(4) 宇宙システムの脆弱性評価の手法についてについて

宇宙システムの脆弱性評価の手法について、資料4に基づき、本件を受託している三井物産セキュアディレクション社より説明があった。委員から以下の意見があった。
(以下、○意見等、●三井物産セキュアディレクション社の回答)

○今回紹介のあった脆弱性評価手法の中で、どの例が我が国の宇宙システムの評価において適用しやすそうか。

●事例①で示した米国の例のように定量的に評価する手法は難しいが、事例③のような質問形式のチェックリストを作る方向性が合うのではないか。

○今回紹介された海外の評価指標の事例に加え、JAXA等が行っている安全基準の評価手法等も参考とすることが重要である。

○脆弱性の評価においては、機能低下時における影響度の評価や、最低限許容される影響等についての要素も含めることが重要である。

以上